

(9) シクラメン

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 灰色かび病 <i>Botrytis cinerea</i>	1. 罹病葉、罹病花は早目に除去する。 2. 通風、換気を良好にする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. フルピカフロアブルは開花中に花卉に薬液が付着すると薬害を生じる場合があるので、開花期以降の散布は避ける。	発 病 初 期	1 9 — M7・19 19	ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤 フ ル ピ カ フ ロ ア ブ ル サ ン ヨ ー ル (混) ポ リ ベ リ ン 水 和 剤 ポ リ オ キ シ ン A L 水 溶 剤
2 葉腐細菌病 <i>Pantoea agglomerans</i>	1. 無病株から採種する。 2. 使用後の資材はよく洗浄する。 3. 病葉や病花などは放置せずに圃場外で処分する	鉢 上 げ 時	M1 41・25	キ ノ ン ド ー 粒 剤 (混) ア グ リ マ イ シ ン - 1 0 0
		発 病 初 期 (葉 柄 基 部 散 布)	M1 M1 M1	キ ノ ン ド ー 水 和 剤 4 0 キ ノ ン ド ー 水 和 剤 8 0 キ ノ ン ド ー フ ロ ア ブ ル
3 苗立枯病 <i>Rhizoctonia solani</i>	1. 排水を図り、被害株は早めに処分する。	播 種 前	M3・1	(混) ホ ー マ イ 水 和 剤
		定 植 時	14	リ ゾ レ ッ ク ス 粉 剤
4 萎凋病 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>cyclaminis</i>	1. 培土は無病のものを使用する。 2. 育苗箱や植木鉢はよく洗浄する。 3. 発病して枯死した株の鉢はそのまま放置しないで直ちに処分する。			
5 軟腐病 <i>Pectobacterium carotovorum</i>	1. 使用する用土や鉢を蒸気などにより、消毒する。 2. 灌水中に使用する水は、細菌に汚染されているようなものは避ける。	発 生 初 期	25・M1	(混) ド ー マ イ シ ン 水 和 剤
6 炭疽病 <i>Colletotrichum gloeosporioides</i>	1. 枯死葉は早期に取り除き、圃場外に持ち出して処分する。 2. 高温多湿条件下で発生するので、盛夏期には遮光し、換気する。 3. 用土や培土は蒸気消毒する。 4. 発病株からの採種は行わない。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ヘルシード乳剤は施設栽培でのみ使用する。	発 病 初 期	3 M1 M1 M3	ヘ ル シ ー ド 乳 剤 キ ノ ン ド ー フ ロ ア ブ ル オ キ シ ン ド ー 水 和 剤 8 0 ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤
7 オンシツコナジラミ	1. 苗による持込みに注意する。 2. ハウスの開口部に防虫ネット（1mm目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3. 圃場内及び周辺の雑草処理を徹底する。 4. 被害植物や雑草は除去後に土中に埋没するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5. 栽培休止期に施設を密封し、ハウス内温度が50℃にまで達すれば、コナジラミ類を死滅させることができる。 6. 侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げるができる。			
8 ミカンキイロアザミウマ	1. 外部から苗を購入する際には虫の有無に注意する。 2. ハウスの開口部に防虫ネット（1mm目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3. 被害植物や雑草は除去後に土中に埋没するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 4. 圃場周辺の雑草処理を徹底する。 5. 侵入防止対策を実施しているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げるができる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 密度が高くなると防除効果が劣るので、低密度時の散布を心がける。 2. 開花後は密度が急増するので注意する。	発 生 初 期	14 14	パ ダ ン S G 水 溶 剤 エ ビ セ ク ト 水 和 剤
9 キンケクチプトゾウムシ	1. 圃場周辺の雑草を除草する。 2. 侵入防止のため、施設開口部に防虫ネット（1mm目合以下）をはる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. トクチオン乳剤は成虫に、ガゼット粒剤は幼虫に登録がある。	発 生 初 期	1A 1B	ガ ゼ ッ ト 粒 剤 ト ク チ オ ン 乳 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

(10) ポインセチア

※ポインセチアは農薬登録上、花き類・観葉植物のグループではなく、樹木類のグループに属する。

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 コナジラミ類	1. 苗による持込みに注意する。 2. ハウスの開口部に防虫ネット（1mm目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3. 圃場内及び周辺の雑草処理を徹底する。 4. 被害植物や雑草は除去後に土中に埋没するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5. 栽培休止期に施設を密封し、ハウス内温度が50℃にまで達すれば、コナジラミ類を死滅させることができる。 6. 侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げるができる。 (薬剤使用の特記事項) 1. アブロード水和剤はオンシツコナジラミ及びタバココナジラミ類の幼虫のみに登録がある。 2. アドマイヤーフロアブルは施設栽培でのみ使用する。 3. モレスタン水和剤は苞葉着色後の使用は避ける。	発生初期	15 16 3A 4A 21A UN	ノーマルト乳剤 アブロード水和剤 トレボン乳剤 アドマイヤーフロアブル サンマイトフロアブル モレスタン水和剤

(11) らん(ラン類)

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 ハダニ類	1. 周辺雑草の除去を徹底する。 2. 室内で栽培すると多発しやすいが、春～夏期に直接雨の当たるところに鉢をおくと減少する。			
2 ナメクジ類	1. 鉢の置場に石灰を散布する。 2. 排水を囚って土壌表面を乾燥させ、作物残さや雑草などの餌となるものを除去する。 3. 潜伏場所をなくする。			